

JR 三ノ宮駅に新駅ビルが誕生、商業施設やホテルを整備 – 神戸三宮の再開発“6 駅が繋がる”まちづくり

JR 三ノ宮新駅ビル及び三宮周辺地区の再整備により、商業ゾーン、ホテル、オフィス、広場空間を備える新駅ビルが誕生。2023 年度に着工、2029 年度に開業予定だ。



イメージパース JR 三ノ宮新駅ビル外観(全景)

1 日 70 万人超の乗降客数があり、神戸空港や山陽新幹線の新神戸駅にも至近の好立地で、神戸エリアのハブ的役割を担う神戸・三宮駅。一方で、三宮駅周辺は、これまで「乗換動線がわかりにくい」「駅から周辺のまちへのつながりが弱い」といった課題を抱えてきた。



JR 三ノ宮新駅ビル及びその周辺の乗換動線イメージ

今回の再開発では、その課題を解消し、JR 三ノ宮駅、地下鉄三宮駅、阪神神戸三宮駅、阪急神戸三宮駅、ポートライナー三宮駅といった、三宮周辺の6つの駅があたかも1つの大きな駅となるような空間づくりを目指す。駅と駅、駅と周辺のまちをつなぐ「えき〜まち空間」を創出し、人と公共交通優先の空間“三宮クロススクエア”を段階的に整備。神戸の玄関口となるようなまちづくりに神戸市、JR 西日本、UR が連携して取り組んでいく。

神戸を発信する大型商業施設 & ホテル



三宮クロススクエア(東側・第1段階)のイメージ

再開発において賑わい創出の核と言えるのが、JR 西日本が進める JR 三ノ宮駅新駅ビル開発計画。店舗面積約 19,000 m²を誇る商業施設は、神戸の産業や食文化を背景とした“モノ提案”と、生活を豊かにする“コト・トキ提案”を通し、リアルとオンラインを組み合わせた“神戸ならではの価値”を提供する。

また、駅ビル内には食・アート・音楽イベントとも連動するホテルも開業予定。約 250 室の客室と、上質で洗練されたロビー空間を設え、多様な文化を体験できるホテルを目指す。



駅前広場直上には、デッキを整備し、居心地の良い待合空間を形成。既存の商業施設「ミント神戸」のほか“三宮クロススクエア”と連動し、恒常的なにぎわいの場所を創出する。

再開発計画概要



JR 三ノ宮新駅ビル外観

JR 三ノ宮駅新駅ビル開発計画

着工予定:2023 年度

開業予定:2029 年度

所在地:神戸市中央区雲井通 8 丁目 1-2

用途:商業、ホテル、オフィス

総事業費:約 500 億円

敷地面積:約 8,600 m²

延床面積:約 100,000 m²

階数:地下 2 階、地上 32 階、塔屋 2 階

高さ:約 160m